

平成30年度

上田市の教育支援年報

(第 13 集)

上田市教育委員会

<i>I</i>	<i>教育支援委員会の基本的運営の概要</i>	<i>1</i>
1	教育支援委員会の設置根拠	1
2	教育支援委員会の目的と市教育委員会の役割	1
3	委員構成.....	2
4	委員会の業務内容及び資料作成	2
<i>II</i>	<i>上田市の特別支援教育（学級）のあゆみ</i>	<i>20</i>
1	特別支援学級設置校とその種別	20
2	特別支援学級及び在籍児童生徒数	21
3	特別支援学級卒業生の動向	22
<i>III</i>	<i>教育支援の実施内容</i>	<i>23</i>
1	教育相談と判断の実施人数	23
2	判断会議の経過とその対象人数	24
3	判断の方向とその人数	24
4	判断と同じ選択者数.....	25
5	判断と異なる選択者数	25
6	主たる障がいの傾向.....	25
7	言語通級指導教室の状況（ことばの教室）	26
8	LD、ADHD 等通級指導教室の状況（まなびの教室）	27
<i>IV</i>	<i>上田市教育支援委員名簿</i>	<i>28</i>

I 教育支援委員会の基本的運営の概要

1 教育支援委員会の設置根拠

- (1) 学校教育法施行令第十一条の二「市町村の教育委員会は、児童生徒等のうち視覚障害者等について、入学期日等の通知、学校の指定、特別支援学校への就学についての通知をしようとするときは、その保護者及び教育学、医学、心理学その他の障害のある児童生徒等の就学に関する専門的知識を有する者の意見を聴くものとする。」により上田市教育支援委員会を置く。
- (2) また、学校教育法施行令の一部改正（平成 25 年）により「障害のある児童生徒等に対する一貫した支援について（平成 25 年 10 月文科初第 756 号通知）」が出され、同通知では、「市町村の教育委員会は、医療、保健、福祉、労働等の関係機関と連携を図りつつ、乳幼児期から学校卒業までの一貫した教育相談体制を整備することが重要である」とされ、「就学指導委員会」については「早期からの教育相談・支援や就学先決定時のみならず、その後の一貫した支援についても助言を行うという視点から機能の充実を図るとともに、『教育支援委員会』といった名称とすることが適当である。」とされている。
- (3) これらの趣旨に則り、上田市では平成 27 年度から名称を「就学指導委員会」から「教育支援委員会」に改め、障がいのある児童生徒等に対する一貫した支援を行うため同委員会を設置する。

【附属機関に関する条例】（要約）

- （趣 旨） 第 1 条 法律又は政令に定めのあるものを除くほか、地方自治法第 138 条の 4 第 3 項の規定により、必要な事項を定める。
- （設 置 等） 第 2 条 別表の附属機関を置く。その附属機関の任務及び組織並びに委員の任期は、別表のとおり。
- （会長及び副会長） 第 3 条 会長・副会長は互選し、会長は会務を総理し、副会長は代理する。
- （会 議） 第 4 条 会長が招集し議長となる。過半数の出席で成立し、その過半数で決する。

＜別表＞

附属機関の属する執行機関	附属機関の名称	組織、任期及び所掌事務
教育委員会	上田市教育支援委員会	1 任務 心身障害児の就学指導に関し、教育委員会の諮問に応じ、調査審議を行うこと。 2 組織 委員会は、委員 15 人以内をもって組織し、学識経験のある者、医師及び特別支援教育関係者のうちから教育委員会が委嘱する。 3 任期 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 教育支援委員会の目的と市教育委員会の役割

(1) 教育支援委員会の目的

上田市教育支援委員会は、特別な支援を必要とする児童生徒及び保護者の心情を理解・受容しなが

ら、心理的・教育的・医学的な総合的な実態調査から作成された資料をもとに、専門的知識を有する者の意見聴取や審議を行い、市教育委員会に報告することを目的とする。

(2) 教育委員会の役割

上田市教育委員会は、特別な支援を必要とする児童・生徒一人一人がもつ教育的ニーズを明確にし、適切な指導及び必要な支援を受け、持てる力を可能な限り伸ばし、生きる力を身につけ、自立し、社会参加することを目指し、早期から教育相談、就学に関する相談、就学後の適切な教育及び必要な教育支援を行うものである。同教育委員会には障がいのある児童生徒の就学先決定の権限と責任があり、その子どもとその保護者に十分な情報提供を行うとともに、その意向を可能な限り尊重しなければならない。

そのため、市教育委員会は、教育支援委員会の報告に従い、各関係機関と連携しながら、児童生徒本人及び保護者の心情を尊重しつつ教育措置を推進する必要がある。

また、市教育委員会は、就学先決定後も支援内容等について柔軟な見直しや、児童生徒の適応の状況や周囲の環境を踏まえた就学先の見直しを行い、その児童生徒が、その年齢及び能力、特性を踏まえた教育が受けられるようにする役割を持つ。

3 委員構成

○平成 30 年度は 15 名の委員で構成された。

内訳 医師（眼科、耳鼻科、小児科）3 名

学識経験者（大学職員、福祉関係機関、特別支援学校教育相談担当者）5 名

学校関係者（校長、教頭、小中学校の特別支援学級担当者）7 名

4 委員会の業務内容及び資料作成

(1) 教育支援委員会の開催

- ア 同委員会は、会長が召集する。
- イ 同委員会は、過半数の委員の出席により成立する。
- ウ 就学先の判断は、出席委員全員の合意の中で決定する。
- エ 判断のための資料は、同委員会開催当日以前に送付される。
- オ 同委員会開催回数は、年間 8 回とする。
- カ 判断結果は、市教育委員会に報告される。

(2) 教育支援委員会提出資料について

- ア 資料は、該当の児童生徒を正確に理解し、専門的な立場での意見交換のためのものであることから、可能な限り児童生徒の状況や実態が的確に把握できるものにする。
- イ 該当児童生徒の所属する園・学校が保護者と相談の上、資料を作成する。
- ウ 相談員が児童生徒の所属園・学校へ赴き、相談及び行動観察を行い、所見を作成する。
- エ 資料の主たる内容
 - ① 児童生徒の状況 生育歴、障がいの状態・診断名・検査結果、所持手帳 等、
 - ② 児童生徒の実態把握 生活習慣、行動面、運動面、学習面、コミュニケーション力 等
 - ③ 家族にかかわること 保護者名、住所、学校区名、連絡先 等
- オ 判断のための資料は、同委員会開催当日以前に送付される。
- カ 資料の内容は、守秘扱いとする。

(3) 教育支援委員会提出資料について（学校教育法施行令第 22 条 3 他による）

別表 1

障がいの状態（区分・種類、程度）

区分・種類	22 条の 3 該当	756 号該当	
		特別支援学級	通級による指導
視覚障害者 弱視者	両眼の視力がおおむね〇・三未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度なもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの	拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が困難な程度のもの	拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が困難な程度の者で、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とするもの
聴覚障害者 難聴者	両耳の聴力レベルがおおむね六〇デシベル以上のもののうち、補聴器等の使用によっても通常の話を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの	補聴器等の使用によっても通常の話を解することが困難な程度のもの	補聴器等の使用によっても通常の話を解することが困難な程度の者で、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とするもの
知的障害者	① 知的発達が遅滞があり、他人との意思疎通が困難で日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする程度のもの ② 知的発達の遅滞の程度が前号に掲げる程度に達しないもののうち、社会生活への適応が著しく困難なもの	知的発達が遅滞があり、他人との意思疎通に軽度の困難があり日常生活を営むのに一部援助が必要で、社会生活への適応が困難である程度のもの	
肢体不自由者	① 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの ② 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないもののうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの	補装具によっても歩行や筆記等日常生活における基本的な動作に軽度の困難がある程度のもの	肢体不自由、病弱又は身体虚弱の程度が、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの
病弱者 身体虚弱者	① 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの ② 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの	① 慢性の呼吸器疾患その他の疾患の状態が持続的又は間欠的に医療又は生活の管理を必要とする程度のもの ② 身体虚弱の状態が持続的に生活の管理を必要とする程度のもの	
言語障害者		口蓋裂、構音器官のまひ等器質的又は機能的な構音障害のある者、吃音等話し言葉におけるリズムの障害のある者、話す、聞く等言語機能の基礎的事項に発達の遅れがある者、その他これに準じる者（これらの障害が主として他の障害に起因するものではない者に限る。）で、その程度が著しいもの	口蓋裂、構音器官のまひ等器質的又は機能的な構音障害のある者、吃音等話し言葉におけるリズムの障害のある者、話す、聞く等言語機能の基礎的事項に発達の遅れがある者、その他これに準じる者（これらの障害が主として他の障害に起因するものではない者に限る。）で、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの
自閉症者		① 自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のもの ② 主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、社会生活への適応が困難である程度のもの	自閉症又はそれに類するもので、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの
情緒障害者			主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの
学習障害者			全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示すもので、一部特別な指導を必要とする程度のもの
注意欠陥多動性障害者			年齢又は発達に不釣り合いな注意力、又は衝動性・多動性が認められ、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもので、一部特別な指導を必要とする程度のもの

参考文献（平成 25 年 9 月）『学校教育法施行令』第 22 条の 3

文部科学省初等中等教育局長（平成 25 年 10 月）756 号通知『障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について』

(4) 相談調査票記入の手引き（4 頁～18 頁）

【様式1】

秘

上田市教育支援委員会 相談調査票（来入児）

このシートの行数は増減が可能です。枠にとらわれずに必要事項を記入してください。

ふりがな		生年月日 (歳)	在籍園・在籍センター名
名前(性別)	(男・女)		
保護者名(続柄)		園長名	職印
現住所		園記入者	在籍園等で該当児童のことを最も知る 担当者がこのシートを作成する。
連絡先		就学予定先 学区学校名	

本人の様子	生育歴上の 特記事項	妊娠・胎児期の両親の健康 その他 特記事項	父 (健・否) 母 (健・否) 妊娠時に母親が妊娠中毒症	このシートは多くの人が見る資料のため、保護 者と共通理解した内容を記入する。 病院等の診断・他機関との相談等での相談歴 をできるだけ詳しく記す。		
	乳幼児健診 等での所見	出生時の身長・体重 その他 特記事項	身長(56 cm) 体重(2,010g) 早産(8ヶ月)			
	相談や療育 等の様子	出生時の異常の有無	有 (有の状況 新生児黄疸等の異常でこども病院へ緊急搬送) 無			
	家庭環境等	乳幼児期の様子	首のすわり(4か月) つかまり立ち(11ヶ月) 離乳(12ヶ月) 一人歩き(1歳2か月) 片言(2歳半) ・3ヶ月健診から発達の遅れを教えられ、療育の場を紹介してもらった。 ・保健師さんが相談を受けてきてくれた。			
		子育て相談や療育等の 有無	有 (有の状況 市の「すまいる広場」・発達相談センターの「たんぼぼ教室」を活用した。) 無 ・児童発達支援センター〇〇園に入園			
		家庭の状況・家族構成・ 保護者と本児との関係等	・本児の発達を促すために家族が協力している。 ・祖父(65歳) 祖母(64歳) 弟(2歳)			
	障がい の状態 診断名 検査結果	・言語発達の遅れが見られる。 ・自閉スペクトラム症・知的障がい(平成29年4月 〇〇病院) ・新版K式発達検査(平成28年6月 〇〇医療センター)			判断の根拠となる診断名(診断日・受診医療機 関名)、心理検査結果(検査日・検査名・数値) を記入する。	
所持手帳	療育手帳	無 有 (A1 A2 B1 B2) 交付年月日 年 月 日	身体障害 者 手帳	無 有 (種 級) 交付年月日 年 月 日	精神障害 者 保健福祉 手帳	無 有 (1級 2級 3級) 交付年月日 年 月 日

主 訴	自分の思いを周りの人に伝えようとし、小集団の中で一緒に活動することができるよう	・できるだけ肯定的な見方で表記 する。教育支援委員会による判断 を必要としている根拠を書く。
-----	---	--

生活習慣	食事	全面介助が必要	大部分介助が必要	一部介助が必要	大体一人ができる	箸を使って一人で できる
	排泄	全面介助が必要			一人でできる	尿意を催した時にトイレ に行き一人でできる
	衣服の 着脱	全面介助が必要	大部分介助が必要	一部介助が必要	大体一人ができる	ボタン・ファスナー等を含 め一人でできる
	安全管理	医療的ケアが必要	常時1対1での管理が必要	時と場に応じて1対1での 管理が必要になることも ある	注意と配慮が必要	一人で安全に登下校で きる等、特別な配慮を必 要としていない
	指示理解	言葉による指示の理解 が難しい	手渡しや手を添えると反 応できる	個別に身振りや視覚的 な手がかりを添えると反 応できる	聞き違いや聞き漏らしが ある	言語指示を理解し反応 できる

実 態 把 握	言語表出	発声が見られず、言語での表現が難しい	数語の単語が言える	単語を羅列したり、二語文、三語文で話す	思いつづまに話す	簡単な日常会話ができる	適切な速さで話す(たどたどしさや詰まることがない)	会話ができる	困ったときに聞くことができ、拒否や要求を伝えることができる	話し合いができる
	言語理解・数概念	絵本の中の人物を聞かせる指さしをする	自分の名前を言える	5色以上の色がわかり、その色の名前を言うことができる	手本を見て丸・三角形・四角形などが書ける	簡単な文字を読める	10までの数の概念が確立している	自分の名前をひらがなで書ける		
	対人関係	本人からは関わりが見られない	特定の人には関わることができる	友だちのそばにいるが、一人で遊んでいる	口げんかなど友達とのトラブルが多い	非難されてると思い込んだりして過剰な反応をする	相手の気持ちを推し量ることができにくい	誰とでもほぼ成立	誰とでも成立	
	注意集中	集中して取り組むことは難しい	興味があることは集中する	与えられた課題には集中する	不注意な間違いをする	忘れ物・なくしものが多い	気が散ることもあるが、ほぼ取り組む	何事にも集中して最後まで取り組む		
	集団参加	参加することが困難	指示・誘いで参加する	特定の小集団には参加する	ルールのある遊びに参加しにくい	静かにすべき時に静かにするなど場に合わせて行動する	様々な集団にほぼ参加する	様々な集団に自発的に参加する	社会的ルールを理解し参加できる	相手の気持ちを考えて行動する
運 動 ・ 健 康 面	運動機能	自力で移動・運動できない	補助具を使っても介助が必要	補助具を使い動くことができる	大体の動きはできる	自由に動くことができる				
	身体認知	前後、左右などの理解が苦手	動きがぎこちない、よく転ぶ	スキップ、ケンケンなどが苦手	細かい作業(折り紙等)が苦手	はさみで線に沿って切ることが苦手	ボール遊びが苦手(距離感・力加減)			
	聴覚	両耳の量力レベルがおおむね60デシベル以上で、補聴器等の使用によっても通常の話し声を聞き取れない	補聴器の使用によっても通常の話し声を聞き取ることが難しい	補聴器等を使用するが、通常の学級での学習におおむね参加できる	日常生活に支障がない					
	視覚	両眼の視力がおおむね0.3未満、または高度な視機能障がいがある。拡大鏡等を使用しても通常の文字等が認識できにくい	拡大鏡等を使用しても通常の文字等を認識できにくい	拡大鏡を使用するが、通常の学級での学習におおむね参加できる	日常生活に支障がない					
主訴にかかわる実態把握 (学習面、コミュニケーション等)						長所・得意なこと				
・何か要求があると単語で訴え、支援者の手を取ってその物や場所へ連れていこうとする。 ・好きなブランコ遊びの揺れを止めると支援者の方を振り返り、「もっと」と単語で要求することがある。						主訴にかかわる実態や左の段階リストの実態を補足する現在の状況を記入する。 困っていることやできないことのみではなく、その子らしさや良さを把握し、今後の支援に生かせそうな可能性を記す。				

必要 な 支 援 ・ 体 制 整 備	生活習慣	・具体物を示しながら、活動を言葉で端的に伝える。
	行動面	・日常的な活動の中で、身振りや「どうぞ」「ください」などの声をかけることで物のやり取りの仕方を学ぶ。
	運動面	・積極的に一人で歩く活動を取り入れる。
	学習面	・日常的な活動の中で、数や色への認識が高まるように声をかける。

現在行っている支援で有効な支援や、その子らしさや良さを生かしたその子ができるための条件や状況を具体的に記入する。

当てはまると思われるところに○を記入する。判断に迷う場合は複数の○可。

	就学の場合			
	22条の3 該当	756号該当		
障がい等の区分	特別支援 学校	特別支援 学級	通級によ る指導	通常の 学級
視 覚 障 がい				
聴 覚 障 がい				
知 的 障 がい	○	○		
肢 体 不 自 由				
病弱 ・ 身体虚弱				
言 語 障 がい				
自 閉 症				
情 緒 障 がい				
学 習 障 害				
注意欠陥多動性障害				

就学についての本人及び保護者の意見

・できれば、みんなと一緒に学校生活を送ってほしい。

本人・保護者の就学に関する意向を園長が聞き取り記入する。

園・児童発達支援センター等の長の就学についての意見

・生活面で1対1の援助を必要とし、コミュニケーションも特定の大人に限られることから特別支援学校か特別支援学級(知的障がい)で学習することが望ましいと考える。

本人・保護者の就学に関する意向を園長が聞き取ったうえで、およそ1年後の姿をイメージして記入する。

* 心理検査結果等の詳細(写し)を添付する。診断書がある場合には、写しを添付する。

【様式2】



上田市教育支援委員会 相談調査票（小中学校）

このシートの行数は増減が可能です。枠にとらわれずに必要事項を記入してください。

学校名		提出年月日	平成	年	月	日
-----	--	-------	----	---	---	---

学校長名	職印	電話	
		ファックス	

ふりがな		性別		生年月日		満年齢	学年・組
児童生徒氏名		男 女				歳	年 組
保護者名(続柄)	()	特別支援教育コーディネーター氏名					
現住所			学級担任氏名				
連絡可能な電話番号			就学予定先学校名(6年生のみ)				

本人の状況	生育歴上の特記事項 ・出生時、乳幼児期の特記事項 ・発達相談・療育の経過 ・家庭環境等	このシートは多くの人が見る資料のため、保護者と共通理解した内容を記入する。					
	障がいの状態 ・診断名 ・検査結果	・診断名 自閉症スペクトラムおよび学習障害(平成29年3月1日 ○○センター ○○医師) ・WISC-IV(平成28年8月30日 ○○小 ○○教諭) 全検査76 言語理解80 知覚推理74 ワーキングメモリー74 処理速度92 判断の根拠となる診断名(診断日・受診医療機関名)、心理検査結果(検査日・検査名・数値)を記入する。					
	所持手帳	療育手帳	無 有 (A1 A2 B1 B2)	身体障害者手帳	無 有 (種 級)	精神障害者保健福祉手帳	無 有 (1級 2級 3級)
		交付年月日	交付年月日	交付年月日	交付年月日	交付年月日	交付年月日
		年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日

主 訴	・一斉指導では周りの刺激に反応することが多く、活動に集中できない。 ・漢字を繰り返し一生懸命練習するが覚えることが難しい。	できるだけ肯定的な見方で端的に表記する。教育支援委員会による判断を必要としている根拠を書く。
-----	--	--

生活習慣	食事	全面介助が必要	大部分介助が必要	一部介助が必要	大体一人でできる	箸を使って一人でできる
	排泄	全面介助が必要	・このリストの該当段階の枠内に○を付ける。(該当する項目が無い場合はそのままにする) ・運動面の身体認知項目は、複数の項目が囲まれる。			尿意を催した時にトイレに行き一人でできる
	衣服の着脱	全面介助が必要	大部分介助が必要	一部介助が必要	大体一人でできる	ボタン・ファスナー等を含め一人でできる

実 態 把 握	行 動 面	安全管理	医療的ケアが必要	常時1対1での管理が必要	時と場に応じて1対1での管理が必要になることもある	注意と配慮が必要	一人で安全に登下校できる等、特別な配慮を必要としていない
		不注意	学習や活動を最後までやり遂げることが難しい	忘れ物・なくしものが多い	面と向かって話しかけられているのに、聞いていないように見える	学習や活動などで注意を集中し続けることが難しい	細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをする
		多動・衝動性	静かにしていることが難しい。常にしゃべる	カッとなりやすく、衝動的な行動が目立つ	他の人がしていることをさえぎったり、割り込んだり、邪魔したりする	手足をそわそわ動かしたり、着席しているときもじもじしたりする	授業中や座っているべき時に席を離れてしまう
		場の理解	人から関わられた時の対応が、場にあっていない	周囲に配慮せず、自分中心の行動をする	静かにすべき時に静かにする等、場に合わせた行動ができない	人との距離感が適切にとれない	相手の気持ちを考えられない行動をする
		コミュニケーション	場面に関係なく独り言を言ったり、唸り声を出したりする	相手の質問の意図に沿った受け答えをしない	冗談やユーモア・嫌みな言葉を理解せず、言葉どおりに受け止めてしまう	目と目で見つめあう、身振りなどの多彩な非言語的な行動が困難である	相手の反応に関係なく、一方的に話す
		対人関係	自分が非難されたり、非難されていると思い込んだりすると過激な反応をする	他の児童生徒からからかわれたり、いじめられたりしたことがある	相手の気持ちを推し量ることができない	口げんかや小競り合いなど、友だちとのトラブルが多い	休み時間に一人でいることが多い
		感覚過敏	ひどく痛がったり、痛みを感じていないように見えたりする	特定のにおいを嫌がる	帽子や靴を身に着けることを嫌がる	大きな音・特定の音を嫌がる	偏食がある
		こだわり	一番や正解でないと許せない	特定の分野に強い興味・関心があり、大人顔負けの知識がある	特定のものに強い執着がある	あることに強くこだわることによって、簡単な活動も取り組みなくなることがある	急な日程変更や変化があると対応できない
	運 動 ・ 健 康 面	運動機能	自力で移動・運動できない	補助具を使っても介助が必要	補助具を使い動くことができる	大体の動きはできる	自由に動くことができる
		身体認知	前後、左右などの理解が苦手	動きがぎこちない、よく転ぶ	スキップ、ケンケンなどが苦手	細かい作業(折り紙等)が苦手	はさみで線に沿って切ることが苦手
		聴覚	両耳の量力レベルがおおむね60デシベル以上、補聴器等の使用によっても通常の話し声を聞き取れない	補聴器の使用によっても通常の話し声を聞き取ることが難しい	補聴器等を使用するが、通常の学級での学習におおむね参加できる	日常生活に支障がない	
		視覚	両眼の視力がおおむね0.3未満、または高度な視機能障がいがある。拡大鏡等を使用しても通常の文字等が認識できない	拡大鏡等を使用しても通常の文字等を認識できない	拡大鏡を使用するが、通常の学級での学習におおむね参加できる	日常生活に支障がない	
	学 習 面	聞く	口頭による指示を覚えていない	相手の話を聞いていないと感じられるときがある	ゆっくり話しかけると理解できる	簡単な指示に対して聞き違いや聞き漏らしがある	
		話す	語彙が少なく、指示語を多く使用する	抑揚が不自然だったり、声の大きさの調節が不適切	適切な速さで話すことが困難(たどたどしい、とても早口)	筋道の通った話をするのが困難	
		読む	音読が遅い	促音や拗音などの特殊音節を読み間違える	語句や行を抜かしたり、繰り返して読んだりする	初めて出てきた語や普段あまり使わない語などを読み間違える	
		書く	板書が写せない、または写すのに極端に時間がかかる	よく書き間違える	字の形や大きさが整わない、独特の筆順で書く等、読みにくい字を書く	ひらがな・カタカナ・漢字をなかなか覚えられない	
		計算する	学年相応の量の比較や理解が難しい	学年相応の文章題の立式が難しい	簡単な計算が暗算でできなったり、時間がかかったりする	指を使って計算したり、九九が完全でなかったりする	
		推論する	表やグラフから「読み取ったり、まとめたりすることができない。	早合点や飛躍した考えをする	目的に沿って行動を計画し、課題解決に向かうことができない	抽象的な概念や、事象の因果関係を理解することが困難である	

主訴にかかわる実態把握 (学習面、コミュニケーション等)	長所・得意なこと
・作文もほとんどひらがなで表記している。 ・漢字5問テストの時間が苦痛になってきている。	・いろいろな運動を楽しむことができる。

主訴にかかわる実態や左の段階リストの実態を補足する現在の状況を記入する。

必要な支援・体制整備	生活習慣	・やることが分かっていると自力で取り掛かれる。
	行動面	・紙に書いておくと確認できる。
	運動面	・どんな運動も得意で生き生きとかかわれる。
	学習面	・努力しているが、既習の漢字を思い出せないため、漢字一覧表を横に置く。ほとんどひらがなでの表記となるので傍線を引いて辞書で漢字を調べると表記できる。

現在行っている支援で有効な支援やその子らしさや良さを生かしたその子ができるための条件や状況を具体的に記入する。

これまでになされた支援	結果と課題
・平成〇年〇月、保護者から「漢字が分からないと泣いている」と相談がある。 ・〇月、△小の通級指導教室の教育相談を受ける。 ・漢字九九シート(1・2年生用)を使った学習の仕方を通級指導教室の先生から教えてもらい、個別学習を実施した。 ・通級指導教室担当者から支援量を多くした方が良いという助言をもらう。	・平成〇年〇月より、個別指導を計画したが、本人が嫌がったために中止した。 ・アセスメントを行い、教育相談継続となる。 ・個別学習で安心して学校に来れるようになった。 ・自閉症・情緒障がい学級での体験学習を試行する。

校内教育支援委員会の判断の根拠となった内容を端的に記す。

校内教育支援委員会・保護者との懇談の経過の記録

期日(会の名称等)	審議内容・懇談内容
平成28年7月25日 (担任と保護者の懇談)	・学習を嫌がり、不登校傾向が見られることについて母親と懇談し、心理検査を実施し実態把握を行ったうえで対応策を検討することにした。
平成28年7月30日 (校内委員会)	・本児の実態を共有する。
平成28年9月2日 (校内委員会)	・心理検査結果から通級による指導か自閉症・情緒障がい学級での体験学習を行うか検討した。
平成28年9月10日 (保護者・特コ・担任)	・校内委員会の考えを伝え、本児と相談し、自閉症・情緒障がい学級での体験学習を試行することにする。
平成29年3月3日 (校内教育支援委員会)	・医師の診断と支援の方向を参考に、本児や保護者の思いを踏まえて自閉症・情緒障がい学級への入級を進めることにする。

校内教育支援委員会の考え

当てはまると思われるところに○を記入する。判断に迷う場合は複数の○可。

障がい等の区分	就学の場合			
	22条の3 該当	756号該当		
	特別支援 学校	特別支援 学級	通級によ る指導	通常の 学級
視 覚 障 が い				
聴 覚 障 が い				
知 的 障 が い				
肢 体 不 自 由				
病弱・身体虚弱				
言 語 障 が い				
自 閉 症		○		
情 緒 障 が い				
学 習 障 害			○	
注意欠陥多動性障害				

本人の意向

・みんなと一緒に勉強したいときもあれば、一人で静かに勉強したいときもある。勉強が分かるようになりたい。

本人・保護者の就学に関する意向を校長が聞き取り記入する。

保護者の意見

・漢字を覚えられるようになってほしい。
・元気に学校に行って楽しんでほしい。

※教育支援ハンドブック68ページ参照

特に配慮すべき事項（※特になければ記入しない。）

・努力しても漢字が覚えられない状況から学習意欲を低下させないようにする。

* 心理検査結果等の詳細(写し)を添付する。診断書がある場合には、写しを添付する。

【様式3】

児童生徒名

相談員の 観察所見						
	必要な支援・環境面の配慮	学 び の 場 の 判 断	学びの場の候補の選定			
			支援提供可能性の検討			

障がいの種 別と程度	
望ましい 教育措置	A 通常の学級で留意して支援を行うことが望ましい。 B 通級(言語障がい、LD・ADHD等、病弱・身体虚弱、視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由)による支援を行うことが望ましい。 C 特別支援学級(知的障がい、自閉症・情緒障がい、病弱・身体虚弱、視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由)で支援を行うことが望ましい。 D 特別支援学校(知的障がい、自閉症・情緒障がい、病弱・身体虚弱、視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由)で支援を行うことが望ましい。 E (就学猶予、就学免除)することが望ましい。
今後への 参考意見	
メモ	

【様式1】

②

上田市教育支援委員会 相談調査票 (来入児)

ふりがな		生年月日		在籍園・在籍センター名
名前(性別)	(男・女)	(歳)	(歳 ヶ月)	
保護者名(続柄)	()	園長名		職印
現住所		園記入者		
連絡先		就学予定先 学区学校名		

本人の様子	生育歴上の 特記事項 乳幼児健診 等での所見 相談や療育 等の様子 家庭環境等	妊娠・胎児期の両親の健康 その他 特記事項	父(健・否) 母(健・否)			
		出生時の身長・体重 その他 特記事項	身長(cm) 体重(g)			
		出生時の異常の有無	有 無 (有の状況)			
		乳幼児期の様子 首のすわり・お座り・歩 行・片言等				
		子育て相談や療育等の 有無	有 無 (有の状況)			
		家庭の状況・家族構成・ 保護者と本児との関係等				
	障がいの 状態 診断名 検査結果					
所持手帳	療育手帳	無 有 (A1 A2 B1 B2) 交付年月日 年 月 日	身体障害 者 手帳	無 有 (種 級) 交付年月日 年 月 日	精神障害 者 保健福祉 手帳	無 有 (1級 2級 3級) 交付年月日 年 月 日

主 訴	
-----	--

生活習慣	食事	全面介助が必要	大部分介助が必要	一部介助が必要	大体一人で行える	箸を使って一人で できる			
	排泄	全面介助が必要	大部分介助が必要	失敗の処理など一部介 助が必要	大体一人で行える	尿意を催した時にトイレ に行き一人でできる			
	衣服の 着脱	全面介助が必要	大部分介助が必要	一部介助が必要	大体一人で行える	ボタン・ファスナー等を含 め一人でできる			
行動面	安全管理	医療的ケアが必要	常時1対1での管理が必要	時と場に応じて1対1での 管理が必要になることも ある	注意と配慮が必要	一人で安全に登下校で きる等、特別な配慮を必要 としていない			
	指示理解	言葉による指示の理解 が難しい	手渡しや手を添えると反 応できる	個別に身振りや視覚的 な手がかりを添えると反 応できる	聞き違いや聞き漏らしが ある	言語指示を理解し反応 できる			
	言語表出	発声が見られず、言語 での表現が難しい	数語の単語 が言える	単語を羅列 したり、二語 文、三語文 で話す	思いつづま まに話す	簡単な日常 会話ができる	適切な速さで 話す(たどた どしさや詰ま ることがない)	会話ができる	困ったときに聞 くことができ、拒 否や要求を伝 えることができる

実 態 把 握	言語理解・ 数概念	絵本の中の 人物を聞かれ 指さしをする	自分の名前を 言える	5色以上の色がわ かり、その色の名前 を言うことができる		手本を見て丸・三 角形・四角形など が書ける		簡単な文字を読め る		10までの数の概 念が確立している		自分の名前をひ らがなで書ける					
	対人関係	本人からは関 わりが見られ ない	特定の人には関 わる事ができる		友だちのそばに いるが、一人で 遊んでいる		口げんかなど 友達とのトラブ ルが多い		非難されてると 思い込んだりし て過剰な反応を する		相手の気持ちを 推し量ることが できにくい		誰とでも ほぼ成立		誰とでも 成立		
	注意集中	集中して取り組 むことは難しい		興味があること には集中する		与えられた課題 には集中する		不注意な間違い をする		忘れ物・なくし ものが多い		気が散ることもあ るが、ほぼ取り組 む		何事にも集中して 最後まで取り組 む			
	集団参加	参加するこ とが困難	指示・誘いで参 加する		特定の小集団に は参加する		ルールのあ る遊びに参 加しにくい		静かにすべき 時に静かにす るなど場に合 わせて行動する		様々な集団 にほぼ参加 する		様々な集団に 自発的に参加 する		社会的ルー ルを理解し参 加できる		相手の気持 ちを考えて行 動する
運 動 ・ 健 康 面	運動機能	自力で移動・運動でき ない			補助具を使っても介助が 必要			補助具を使い動くこと ができる			大体の動きはできる			自由に動くことができる			
	身体認知	前後、左右などの 理解が苦手		動きがぎこちない、 よく転ぶ		スキップ、ケンケン などが苦手		細かい作業(折り紙 等)が苦手		はさみで線に沿って 切ることが苦手			ボール遊びが苦手(距 離感・力加減)				
	聴覚	両耳の量力レベルがおおむね6 0デシベル以上で、補聴器等の 使用によっても通常の話声を聞 き取れない				補聴器の使用によっても通常 の話声を聞き取ることが難しい			補聴器等を使用するが、通常 の学級での学習におおむね参 加できる			日常生活に支障がない					
	視覚	両眼の視力がおおむね0.3未 満、または高度な視機能障がい がある。拡大鏡等を使用しても通 常の文字等が認識できにくい				拡大鏡等を使用しても通常 の文字等を認識できにくい			拡大鏡を使用するが、通常 の学級での学習におおむね参 加できる			日常生活に支障がない					
主訴にかかわる実態把握 (学習面、コミュニケーション等)									長所・得意なこと								

必 要 な 支 援 ・ 体 制 整 備	生活習慣	
	行動面	
	運動面	
	学習面	

当てはまるところに ○を記入する。判断に迷う場合 は複数の○可。	就学の場合				就学についての本人及び保護者の意見
	22条の3 該当	756号該当			
障がい等の区分	特別支援 学校	特別支援 学級	通級によ る指導	通常の 学級	園・児童発達支援センター等の長の 就学についての意見
視 覚 障 がい					
聴 覚 障 がい					
知 的 障 がい					
肢 体 不 自 由					
病弱 ・ 身体虚弱					
言 語 障 がい					
自 閉 症					
情 緒 障 がい					
学 習 障 害					
注意欠陥多動性障害					

＊心理検査結果等の詳細(写し)を添付する。診断書がある場合には、写しを添付する。

【様式2】



上田市教育支援委員会 相談調査票（小中学校）

学校名				提出年月日		平成 年 月 日	
学校長名		職印		電話			
				ファックス			

ふりがな	性別	生年月日	満年齢	学年・組	
児童生徒氏名	男・女			年	組
保護者名(続柄)	()	特別支援教育コーディネーター氏名			
現住所		学級担任氏名			
連絡可能な電話番号		就学予定先学校名(6年生のみ)			

本人の状況	生育歴上の特記事項						
	・出生時、乳幼児期の特記事項 ・発達相談・療育の経過 ・家庭環境等						
	障がいの状態 ・診断名 ・検査結果						
	所持手帳	療育手帳	無 有 (A1 A2 B1 B2)	身体障害者手帳	無 有 (種 級)	精神障害者保健福祉手帳	無 有 (1級 2級 3級)
		交付年月日		交付年月日		交付年月日	
		年 月 日		年 月 日		年 月 日	

主 訴						
-----	--	--	--	--	--	--

生活習慣	食事	全面介助が必要	大部分介助が必要	一部介助が必要	大体一人でできる	箸を使って一人でできる
	排泄	全面介助が必要	大部分介助が必要	失敗の処理など一部介助が必要	大体一人でできる	尿意を催した時にトイレに行き一人でできる
	衣服の着脱	全面介助が必要	大部分介助が必要	一部介助が必要	大体一人でできる	ボタン・ファスナー等を含め一人でできる
	安全管理	医療的ケアが必要	常時1対1での管理が必要	時と場に応じて1対1での管理が必要になることもある	注意と配慮が必要	一人で安全に登下校できる等、特別な配慮を必要としていない
	不注意	学習や活動を最後までやり遂げるのが難しい	忘れ物・なくしものが多い	面と向かって話しかけられているのに、聞いていないように見える	学習や活動などで注意を集中し続けることが難しい	細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをする

実 態 把 握	行動面	多動・衝動性	静かにしていることが難しい。常にしゃべる		カッとなりやすく、衝動的な行動が目立つ		他の人がしていることをさげざったり、割り込んだり、邪魔したりする		手足をそわそわ動かしたり、着席しているときももじもじしたりする		授業中や座っているべき時に席を離れてしまう		
		場の理解	人から関わられた時の対応が、場にあっていない		周囲に配慮せず、自分中心の行動をする		静かにすべき時に静かにする等、場に合わせた行動ができない		人との距離感が適切にとれない		相手の気持ちを考えられない行動をする		
		コミュニケーション	場面に関係なく独り言を言ったり、唸り声を出したりする		相手の質問の意図に沿った受け答えをしない		冗談やユーモア・嫌みな言葉を理解せず、言葉どおりに受け止めてしまう		目と目で見つめあう、身振りなどの多彩な非言語的な行動が困難である		相手の反応に関係なく、一方的に話す		
		対人関係	自分が非難されたり、非難されていると思い込んだりすると過激な反応をする		他の児童生徒からからかわれたり、いじめられたりしたことがある		相手の気持ちを推し量ることができない		口げんかや小競り合いなど、友だちとのトラブルが多い		休み時間に一人であることが多い		
		感覚過敏	ひどく痛がったり、痛みを感じていないように見えたりする		特定のにおいを嫌がる		帽子や靴を身に着けることを嫌がる		大きな音・特定の音を嫌がる		偏食がある		
		こだわり	一番や正解でないと許せない		特定の分野に強い興味・関心があり、大人顔負けの知識がある		特定のものに強い執着がある		あることに強くこだわることによって、簡単な活動も取り組みなくなることがある		急な日程変更や変化があると対応できない		
	運動・健康面	運動機能	自力で移動・運動できない		補助具を使っても介助が必要		補助具を使い動くことができる		大体の動きはできる		自由に動くことができる		
		身体認知	前後、左右などの理解が苦手	動きがぎこちない、よく転ぶ		スキップ、ケンケンなどが苦手		細かい作業(折り紙等)が苦手		はさみで線に沿って切ることが苦手		ボール遊びが苦手(距離感・力加減)	
		聴覚	両耳の量力レベルがおおむね60デシベル以上、補聴器等の使用によっても通常の話声を聞き取れない		補聴器の使用によっても通常の話声を聞き取ることが難しい		補聴器等を使用するが、通常の学級での学習におおむね参加できる		日常生活に支障がない				
		視覚	両眼の視力がおおむね0.3未満、または高度な視機能障がいがある。拡大鏡等を使用しても通常の文字等が認識できない		拡大鏡等を使用しても通常の文字等を認識できない		拡大鏡を使用するが、通常の学級での学習におおむね参加できる		日常生活に支障がない				
	学習面	聞く	口頭による指示を覚えていられない		相手の話を聞いていないと感じられるときがある		ゆっくり話しかけると理解できる		簡単な指示に対して聞き違いや聞き漏らしがある				
		話す	語彙が少なく、指示語を多く使用する		抑揚が不自然だったり、声の大きさの調節が不適切		適切な速さで話すことが困難(たどたどしい、とても早口)		筋道の通った話をするのが困難				
		読む	音読が遅い		促音や拗音などの特殊音節を読み間違える		語句や行を抜かししたり、繰り返して読んだりする		初めて出てきた語や普段あまり使わない語などを読み間違える				
		書く	板書が写せない、または写すのに極端に時間がかかる		よく書き間違える		字の形や大きさが整わない、独特の筆順で書く等、読みにくい字を書く		ひらがな・カタカナ・漢字をなかなか覚えられない				
		計算する	学年相応の量の比較や理解が難しい		学年相応の文章題の立式が難しい		簡単な計算が暗算でできなかったり、時間がかかったりする		指を使って計算したり、九九が完全でなかったりする				
		推論する	表やグラフから「読み取ったり、まとめたりすることができない。		早合点や飛躍した考えをする		目的に沿って行動を計画し、課題解決に向かうことができない		抽象的な概念や、事象の因果関係を理解することが困難である				
	主訴にかかわる実態把握 (学習面、コミュニケーション等)								長所・得意なこと				

必要な支援・体制整備	生活習慣	
	行動面	
	運動面	
	学習面	

これまでになされた支援	結果と課題

校内教育支援委員会・保護者との懇談の経過の記録

期日(会の名称等)	審議内容 ・ 懇談内容

校内教育支援委員会の考え

当てはまると思われるところに○を記入する。判断に迷う場合は複数の○可。

障がい等の区分	就学の場合			
	22条の3 該当	756号該当		
障がい等の区分	特別支援 学校	特別支援 学級	通級によ る指導	通常の 学級
視 覚 障 が い				
聴 覚 障 が い				
知 的 障 が い				
肢 体 不 自 由				
病 弱 ・ 身 体 虚 弱				
言 語 障 が い				
自 閉 症				
情 緒 障 が い				
学 習 障 害				
注意欠陥多動性障害				

本人の意向

保護者の意見

※教育支援ハンドブック68ページ参照
特に配慮すべき事項 (※特になければ記入しない。)

* 心理検査結果等の詳細(写し)を添付する。診断書がある場合には、写しを添付する。

(5) 教育支援に係る業務の具体的内容

実 施 月	業 務 内 容												備 考
	教育支援の年間計画・まとめ	追 跡 調 査	特別支援学級担任・在籍調査	新 （補）委員委嘱	検 査 希 望 調 査	発 達 検 査	就 学 の 相 談 ・ 行 動 観 察	判 断 報 告 書 の 作 成 ・ 発 送	通 級 指 導 教 室 の 設 置 ・ 手 続 等	支 援 会 議 ・ 関 係 者 回 議	県 教 委 へ の 報 告	年 報 作 成 ・ 配 布	業 務 に 伴 う 主 作 業 等
4	○	○	○	○	○				○	○	○	○	委嘱状印刷・年報編集 就学の相談・検査希望調査 特別支援学級等編成計画保管
5		○	○		○	○	○		○	○	○	○	委員の教育委員会承認 就学状況調査報告（県） 特別支援学級等訪問
6					○	○	○	○		○			正副会長互選 教育支援委員会開始 行動観察・所見作成
7					○	○	○	○		○			特別支援学級在籍児童生徒 の「個別の指導計画」「個別 の教育支援計画」の保管
8					○	○	○	○		○			通常の学級児童生徒の「個別 の指導計画」保管
9					○	○	○	○		○			
10					○	○	○	○		○			
11			○		○	○	○	○		○	○		特別支援学級在籍6年生 の再判断のための検査
12	○		○		○	○	○	○		○	○		特別支援学校就学予定 者報告（県へ）
1	○				○	○	○	○		○	○		年中児の就学相談
2	○		○			○	○		○	○	○		
3		○	○	○		○				○	○	○	年報編集

Ⅱ 上田市の特別支援教育（学級）のあゆみ

1 特別支援学級設置校とその種別

学級種別 設置年月日	知的障がい	自閉症・情緒障がい	言語障がい LD・ADHD等	備 考
昭和29年5月	北小			
31.5	三中			
32.4	城下小			原峠分室二中・城下小へ
33.4	東塩田小			
35.4	川辺小、丸子中央小			
36.4	塩田中			
38.4	丸子中			
39.4	東小、本原小			
40.4	武石小			
41.4	丸子北中			
42.4.5	神科小、川西中、西小、傍陽小、真田中			
43.5	五中、豊殿小			
44.5	一中			
45.5	長小			
47.5	神川小			
48.5	中塩田小			
48.9			北小(2学級)※	※言語障害学級
50.4	丸子北小			
53.4	塩尻小			
54.1				上田養（県）
58.4	清明小			
59.4	南小	二中	南小(2学級)※	※言語障害学級
60.4		清明小		
62.4	二中			
63.4	六中（川西中）			原峠分室（病虚弱学級）四中へ
平成元年4月		四中、北小		
2.4	川西小	豊殿小		
3.4	浦里小	塩田中		
4.4		一中、五中、神科小		
5.4		東小、川辺小		城下小原峠分室廃級
6.3		二中（廃級）		
9.4			北小(2学級)	北小言語障がい通級指導教室開設（北小言語障害学級廃級）
10.4		三中、南小	南小(2学級)	南小言語障がい通級指導教室開設（南小言語障害学級廃級）
11.4		六中		
12.4	浦里小（廃級）			
13.4		丸子中央小、丸子北小、丸子中		
14.4		城下小、丸子北中		
16.4	西内小、二中（休級）	西小、神川小		
17.4	二中（復級）	武石小		
18.4	塩川小	塩川小、川西小、真田中		
20.4		塩田西小	北小	北小LD・ADHD等通級指導教室開設
21.4		二中（復級）		
22.4		本原小		
23.4		西小		
24.4	西内小（休級）	東塩田小		
25.4		塩尻小		
27.4			北小	北小LD・ADHD等通級指導教室増設
29.4			三中	三中LD・ADHD等通級指導教室開設
31.4			丸子中央小	丸子中央LD・ADHD等通級指導教室開設

現在は32校（小22校、中10校）で設置、中学校1校に病虚弱学級を設置している。

また千曲川の南北を分担するかたちで、言語障がい通級教室設置校が2校、LD等通級指導教室が3校ある。

2 特別支援学級及び在籍児童生徒数

平成30年5月1日現在

番号	学校名	知障		自情障		虚弱		知障・自情障・虚弱 計		言語(通級)		発達(通級)	
		学級	児童生徒	学級	児童生徒	学級	児童生徒	学級	児童生徒	学級	児童生徒	学級	児童生徒
1	清 明 小	1	3	1	6			2	9				
2	東 小	1	7	2	11			3	18				
3	西 小	2	9	3	17			5	26				
4	北 小	1	6	1	7			2	13	2	26	2	30
5	城 下 小	1	2	2	12			3	14				
6	塩 尻 小	1	1	2	12			3	13				
7	川 辺 小	1	8	2	11			3	19				
8	神 川 小	2	11	2	11			4	22				
9	神 科 小	2	10	2	14			4	24				
10	豊 殿 小	1	7	1	3			2	10				
11	東 塩 田 小	1	4	1	8			2	12				
12	中 塩 田 小	2	14	2	10			4	24				
13	塩 田 西 小	1	4	2	9			3	13				
14	浦 里 小	1	2	1	8			2	10				
15	川 西 小	1	2	1	8			2	10				
16	南 小	2	10	2	16			4	26	2	25		
17	丸子中央小	1	7	2	10			3	17				
18	西 内 小							0	0				
19	丸 子 北 小	1	4	2	15			3	19				
20	塩 川 小	1	2	1	4			2	6				
21	菅 平 小							0	0				
22	長 小	1	1	2	10			3	11				
23	傍 陽 小	1	1					1	1				
24	本 原 小	1	4	2	9			3	13				
25	武 石 小	1	3	1	8			2	11				
計		28	122	37	219	0	0	65	341	4	51	2	30
1	第 一 中	1	7	2	9			3	16				
2	第 二 中	1	2	2	11			3	13				
3	第 三 中	2	9	2	13			4	22			1	14
4	第 四 中	1	5	2	13	1	6	4	24				
5	第 五 中	2	9	2	10			4	19				
6	塩 田 中	2	11	3	24			5	35				
7	第 六 中	1	4	1	8			2	12				
8	丸 子 中	1	3	2	13			3	16				
9	丸 子 北 中	2	9	2	9			4	18				
10	菅 平 中							0	0				
11	真 田 中	2	11	1	8			3	19				
計		15	70	19	118	1	6	35	194	0	0	1	14
合 計		43	192	56	337	1	6	100	535	4	51	3	44

3 特別支援学級卒業生の動向

平成31年4月1日現在

番号	進路 学校名	進 学 先							就職	家居 未定	施設	計
		中通	中特	全日	定時・多 部単位	特校	通信	他特校専 門学校				
1	清 明 小		1									1
2	東 小											0
3	西 小	1	3			1						5
4	北 小		2									2
5	城 下 小		5									5
6	塩 尻 小		6									6
7	川 辺 小		8									8
8	神 川 小		5									5
9	神 科 小		8			1						9
10	豊 殿 小		1									1
11	東 塩 田 小		4									4
12	中 塩 田 小		6									6
13	塩 田 西 小		1			1						2
14	浦 里 小											0
15	川 西 小		3									3
16	南 小		4									4
17	丸子中央小		1			1						2
18	西 内 小											0
19	丸 子 北 小		3									3
20	塩 川 小											0
21	菅 平 小											0
22	長 小		2									2
23	傍 陽 小	1										1
24	本 原 小		3									3
25	武 石 小											0
計		2	66	0	0	4	0	0	0	0	0	72
1	第 一 中			1		2	1					4
2	第 二 中			3			1					4
3	第 三 中			2	1	2	3					8
4	第 四 中			3	4	3						10
5	第 五 中			4		3						7
6	塩 田 中			1	1	1	2					5
7	第 六 中			1			1					2
8	丸 子 中			4	1	1						6
9	丸 子 北 中			3		2	2					7
10	菅 平 中											0
11	真 田 中			2		5	1					8
計		0	0	24	7	19	11	0	0	0	0	61
合 計		2	66	24	7	23	11	0	0	0	0	133

Ⅲ 教育支援の実施内容

1 教育相談と判断の実施人数

平成31年3月8日現在

小 学 校	相 談	検 査	判 断 (通級)	判 断 (通級以外)	中 学 校	相 談	検 査	判 断 (通級)	判 断 (通級以外)	幼・保・他	相談 (年中)	相談 (年長)	検 査	判 断 (通級)	判 断 (通級以外)
清 明 小	3	3		3	第 一 中	1	5		1	東 部 保	2	1	1		
東 小	2	2	1	1	第 二 中	2		3	2	南 部 保	2				
西 小	4	4	2	4	第 三 中					北 部 保	2	3	1		3
北 小	2	5	11	2	第 四 中		6			塩 尻 保		1			1
城 下 小	7	3		5	第 五 中	2	3		2	神 川 第 一 保					
塩 尻 小	9	1	3	9	塩 田 中	1			1	神 川 第 二 保					
川 辺 小	11	3	1	11	第 六 中					国 分 保	4	2	2		2
神 川 小	7	4	1	7	丸 子 中					神 科 第 一 保	6	4			1
神 科 小	12	3	6	11	丸 子 北 中	1	4		1	神 科 第 二 保	3	5	3		2
豊 殿 小	9			8	菅 平 中					豊 殿 保	4	2			2
東 塩 田 小	6	1		6	真 田 中			1		城 下 保	2	2	1		2
中 塩 田 小	9	4	3	8						川 辺 保	2	1			1
塩 田 西 小	5	4	1	5	小 諸 養 護	1			1	下 之 条 保		2	1		1
浦 里 小										泉 田 保	3				
川 西 小	7		2	5						塩 田 中 央 保		1			
南 小	13	1	1	8						東 塩 田 保		2	1		2
丸 子 中 央 小	11	10	1	9						西 塩 田 保		2	1		1
西 内 小		1								塩 田 北 保		4			4
丸 子 北 小	4	4	1	3						浦 里 保		3			3
塩 川 小	2	3	2	2						室 賀 保		2			2
菅 平 小	2	1	1							中 丸 子 保					
長 小	5	4		5						み な み 保					
傍 陽 小		1								西 内 保					
本 原 小	3	1		3						東 内 保					
武 石 小	3	5		4						依 田 保		1			
										長 瀬 保					
和 田 小										塩 川 保	1				
上 田 養 護	1									さ な だ 保	2	3			1
長 野 盲	2									そ え ひ 保		4			3
										すがだいら保					
										武 石 保					
										ち ぐ さ 幼	2	2	1		2
										わ か く さ 幼	1	1			
										甘 露 保	4	5			2
										芙 蓉 保	1				
										聖ミカエル保		1		1	
										保 歓 喜 園	3	1			1
										み の り 保		2	1		1
										西 丘 保	3				
										常 田 保	1	2			2
										秋 和 保		1	1		
										三 好 町 保		1			1
										あ ゆ み 保	2	2	1		2
										梅 花 幼		2			
										た ち ば な 幼		2			1
										聖 マリア 幼		5	1		1
										大 屋 幼					
										上 田 幼		4			
										上 田 南 幼	1	8			1
										上 田 女 短 幼		6			
										日 向 幼		3			1
										上 田 北 幼		1			
										おひさまクラブ幼		1			
										西 望 幼		2	1		
										い ず み 幼		9	6		1
										上田いずみ園		3	1		2
										キッズうえだみなみ		1			1
										蓮の音こども園		10			9
										長野ろう学校幼稚園部	2				
										こどもの園					
										すくすく園		3	1		1
										坂 城 保		1			
										東京都の療育園		3			
										未 就 園					
合 計	139	68	37	119	合 計	8	18	4	8	合 計	53	127	25	1	60
相談者数		327名				検査者数		111名				判断者数		229名	

2 判断会議の経過とその対象人数

平成31年3月8日現在

回数	年 月 日	園・学校			計
		幼・保・他	小学校	中学校	
1	平成30年6月7日	0	6	1	7名
2	平成30年7月12日	0	5	1	6名
3	平成30年8月30日	3	9	3	15名
4	平成30年9月20日	13	7	0	20名
5	平成30年10月11日	6	17	1	24名
6	平成30年11月8日	13	13	1	27名
7	平成30年12月6日	22	26	1	49名
8	平成31年1月24日	4	15	3	22名
臨時	平成31年3月8日	0	0	1	1名
	再 判 断	0	58	0	58名
合 計		61	156	12	229名
平成22年度		27	99	14	140名
平成23年度		59	111	17	187名
平成24年度		49	127	9	185名
平成25年度		41	132	16	189名
平成26年度		45	120	8	173名
平成27年度		57	167	12	236名
平成28年度		60	139	2	201名
平成29年度		57	167	21	245名

3 判断の方向とその人数

平成31年3月8日現在

平成31年3月31現在

園・学校	区分						計
	通常学級	特別支援学級			盲・ろう・ 養護学校	通級学級 ことばの教室 まなびの教室	
		知的障がい	自閉症・情緒障がい	肢体不自由			
幼・保・他	0	22	25	1	12	1	61
小学校	0	32	81	0	6	37	156
中学校	0	3	4	0	1	4	12
合 計	0	57	110	1	19	42	229
		168					

4 判断と同じ選択者数

平成31年3月8日現在

平成31年3月8日現在

園・学校	区分						計
	通常学級	特別支援学級			特別支援学校	通級学級 ことばの教室 まなびの教室	
		知的障がい	自閉症・情緒障がい	肢体不自由			
幼・保・他	0	22	23	0	9	1	55
小学校	0	32	81	0	6	37	156
中学校	0	3	4	0	1	4	12
合 計	0	57	108	0	16	42	223
		165					

5 判断と異なる選択者数

平成31年3月8日現在

園・学校	判断（望ましい教育的措置）	異なる教育対応	人数
幼・保・他	特別支援学校（知）	特別支援学級（知）	3名
幼・保・他	特別支援学級（自）	通常学級	2名
幼・保・他	特別支援学級（肢体不自由）	通常学級	1名
小学校			0名
中学校			0名
計			6名

6 主たる障がいの傾向

平成31年3月8日現在

園・学校	区分								計
	知障	自・情障	肢体	視覚	聴覚	病虚弱	通級(言)	通級(発)	
幼・保・他	34	25	1					1	61
小学校	38	81					19	18	156
中学校	3	4	1				1	3	12
合 計	75	110	2	0	0	0	20	22	229
判断数に おける割合	32.8%	48.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	8.7%	9.6%	100%

※ 重複児童生徒は主たる障がいを計上

7 言語通級指導教室の状況（ことばの教室）

(1) 通級の状況

平成30年5月1日現在

学校名 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
北小ことばの教室							
東 小			1				1
西 小				2	1		3
北 小		3	2	1	4		10
神 川 小				2			2
神 科 小		1	1	4		1	7
丸 子 北 小		1					1
長 小				1			1
田 中 小	1						1
計	1	5	4	10	5	1	26
南小ことばの教室							
城 下 小					1		1
東 塩 田 小				1			1
中 塩 田 小		2	1		1	1	5
塩 田 西 小	1			1		2	4
浦 里 小						2	2
川 西 小		1					1
南 小		2	2	1			5
塩 川 小				1			1
武 石 小				2			2
長 門 小				1			1
和 田 小						1	1
青 木 小					1		1
計	1	5	3	7	2	5	25
合 計	2	10	7	17	7	6	51

(2) 指導の実績

平成30年5月1日現在

区 分	人数	指 導
構 音	19	・発声・発語器官の機能訓練、構音練習。 ・聞き取り訓練、発音練習。
吃 音	23	・心身の開放。 ・自由な会話を楽しむ。 ・リズムの効果法による会話練習、環境調整。
難 聴	2	・音の聞き分け練習。 ・発音練習。 ・作文。 ・聞き取り。
言語遅滞	7	・絵本づくりを通して文を作る練習。 ・会話を多くして、自分の考えを言葉で表現する練習。
口蓋裂	0	・構音指導とほぼ同じ指導。（医学的治療がよいので）
緘 黙	0	・お話づくりで、自分の考えを表現する練習。 ・遊びの中で、コミュニケーションをする練習。
自閉的傾向	0	・お話づくりで、自分の考えを表現する練習。 ・遊びの中で、コミュニケーションをする練習。
失語症	0	・ゲームやごっこ遊びなどを通して、日常の語彙を増やす。 正しく復唱する。ひらがなの読み書き、たし算、ひき算などの学習。
計	51	

8 LD、ADHD 等通級指導教室の状況（まなびの教室）

(1) 通級の状況

平成30年5月1日現在

学年 学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
清 明 小			1	1			2
東 小			1			3	4
西 小				1			1
北 小		1	3	2	1	2	9
塩 尻 小				1			1
神 川 小			1				1
神 科 小					1	1	2
豊 殿 小					1		1
塩 田 西 小				1		1	2
川 西 小					1	1	2
南 小				1			1
丸 子 北 小				1		1	2
菅 平 小		1					1
武 石 小				1			1
第 二 中		1					1
第 三 中		3	3				6
第 五 中			1				1
第 六 中		2	1				3
真 田 中		1					1
依田窪南部中		2					2
計	0	2	6	8	4	9	44

(2) 主たる障がい種別状況

平成30年5月1日現在

障がい種別	人数
自閉スペクトラム症(ASD)	14名
学習障がい(LD)	9名
注意欠陥多動性障がい(ADHD)	13名
その他	8名
合 計	44名

Ⅳ 上田市教育支援委員名簿

歴 代 委 員 名

(平成19年度～)

	第2回 平成19年度	第3回 平成20年度	第4回 平成21年度	第5回 平成22年度	第6回 平成23年度	第7回 平成24年度
学識経験者	柄沢 但 〃	柄沢 但 〃	柄沢 但 〃	神原 久美子 (蓮の音こども園)	神原 久美子 (蓮の音こども園)	神原 久美子 (蓮の音こども園)
	藤森 健郎 〃	藤田 敏彦 (元佐久兄相長)	藤田 敏彦 〃	藤田 敏彦 〃	藤田 敏彦 〃	上鹿渡 和宏 (長野大学)
	唐木 昭 (障害者支援センター)	唐木 昭 〃	唐木 昭 〃	唐木 昭 〃	唐木 昭 (かりがね福祉会)	松本 京子 (障害者支援センター)
	水沢 妙子 (保育課)	水沢 妙子 〃	水沢 妙子 〃			
	万年 康男 〃	万年 康男 〃	万年 康男 〃	万年 康男 〃	万年 康男 〃	万年 康男 (上田養護)
医師	吉田 朋孝 〃	吉田 朋孝 〃	吉田 朋孝 〃	吉田 朋孝 〃	吉田 朋孝 〃	吉田 朋孝 (精神科)
	大谷 公子 〃	大谷 公子 〃	大谷 公子 〃	大谷 公子 〃	大谷 公子 〃	大谷 公子 (眼科)
	飯島 勇三 〃	飯島 正道 (耳鼻咽喉科)	飯島 正道 〃	飯島 正道 〃	飯島 正道 〃	飯島 正道 (耳鼻咽喉科)
校長・教頭	◎牛山 廣司 (塩尻小)	◎佐藤 照雄 (傍陽小)	◎山崎 洋 (二中)	◎滝澤 美枝子 (豊殿小)	◎若尾 伸子 (西内小)	◎松村 妙子 (神科小)
	○沓掛 英明 (丸子中央小)	○山崎 洋 (二中)	○滝澤 美枝子 (豊殿小)	○若尾 伸子 (西内小)	○松村 妙子 (神科小)	○関 茂 (中塩田小)
	関 茂 〃	若尾 伸子 (城下小)	若尾 伸子 〃	竹内 秀行 (五中)	竹内 秀行 〃	高見澤 正裕 (丸子北中)
特別支援学級担任	本郷 裕英 〃	小林 邦彦 (二中)	小林 邦彦 〃	宮坂 陽子 (六中)	宮坂 陽子 〃	宮坂 陽子 (六中)
	瀬志本 進 〃	瀬志本 進 〃	瀬志本 進 〃	田中 浩寿 〃	中山 由美子 (北小)	中山 由美子 (北小)
	酒井 理栄子 (本原小)	酒井 理栄子 〃	酒井 理栄子 〃	酒井 理栄子 〃	酒井 理栄子 〃	櫻井 美和 (長小)
	村瀬 陽子 〃	村瀬 陽子 〃	松澤 隆二 (塩川小)	瀬志本 智子 (丸子北小)	瀬志本 智子 〃	瀬志本 智子 (丸子北小)

◎会長

○副会長

	第 8 回 平成 2 5 年度	第 9 回 平成 2 6 年度	第 1 0 回 平成 2 7 年度	第 1 1 回 平成 2 8 年度	第 1 2 回 平成 2 9 年度	第 1 3 回 平成 3 0 年度
学 識 経 験 者	神原 久美子 (蓮の音こども園)	富井 浩子 (長野医療衛生専門学校)	富井 浩子 (長野医療衛生専門学校)	富井 浩子 (長野医療衛生専門学校)	富井 浩子 (長野医療衛生専門学校)	富井 浩子 (長野医療衛生専門学校)
	上鹿渡 和宏 (長野大学)	上鹿渡 和宏 (長野大学)	櫻井 康博 (長野大学)	杉浦 徹 (長野大学)	高木 潤野 (長野大学)	高木 潤野 (長野大学)
	松村 京子 (障害者支援センター)	松村 京子 (障害者支援センター)	松村 京子 (障害者総合支援センター)	松村 京子 (障害者総合支援センター)	松村 京子 (障害者総合支援センター)	松村 京子 (障害者総合支援センター)
						滝澤 美枝子 (元小学校長)
	伊藤 芳子 (上田養護)	伊藤 芳子 (上田養護)	伊藤 芳子 (上田養護)	伊藤 芳子 (上田養護)	伊藤 芳子 (上田養護)	中山 由美子 (上田養護)
医 師	吉田 朋孝 (精神科)	吉田 朋孝 (精神科)	吉田 朋孝 (精神科)	吉田 朋孝 (精神科)	吉田 朋孝 (精神科)	加納 洋 (小児科)
	大谷 公子 (眼科)	大谷 公子 (眼科)	大谷 公子 (眼科)	大谷 公子 (眼科)	大谷 公子 (眼科)	大谷 公子 (眼科)
	飯島 正道 (耳鼻咽喉科)	飯島 正道 (耳鼻咽喉科)	飯島 正道 (耳鼻咽喉科)	飯島 正道 (耳鼻咽喉科)	飯島 正道 (耳鼻咽喉科)	飯島 正道 (耳鼻咽喉科)
校 長 ・ 教 頭	◎松村 妙子 (神科小)	◎柳沢 正孝 (川辺小)	◎峯村 隆 (中塩田小)	◎小出 俊男 (川辺小)	◎小出 俊男 (塩尻小)	◎小出 俊男 (塩尻小)
	◎柳沢 正孝 (川辺小)	○峯村 隆 (中塩田小)	○小出 俊男 (川辺小)	○宮下 幹敏 (塩川小)	○宮下 幹敏 (塩川小)	○田中 浩寿 (豊殿小)
	宮原 美恵 (中塩田小)	畠山 正幸 (南小)	畠山 正幸 (南小)	井上 靖子 (東塩田小)	井上 靖子 (東塩田小)	金澤 正明 (丸子北小)
特 別 支 援 学 級 担 任	宮坂 陽子 (四中)	星合 祐一 (一中)	星合 祐一 (一中)	星合 祐一 (一中)	星合 祐一 (一中)	宮川 綾 (塩田中)
	中山 由美子 (北小)	中山 由美子 (北小)	中山 由美子 (北小)	鳥羽 峰子 (北小)	鳥羽 峰子 (北小)	市川 寛 (長小)
	櫻井 美和 (長小)	石田 修 (東小)	石田 修 (東小)	石田 修 (東小)	杉浦 三恵子 (中塩田小)	杉浦 三恵子 (中塩田小)
	金澤 正明 (丸子中央小)	吉越 敦子 (塩尻小)	吉越 敦子 (塩尻小)	吉越 敦子 (塩尻小)	黒沢 由美 (丸子北小)	大嵩崎 めぐみ (北小)

◎会長

○副会長

上田市の教育支援年報

(平成30年度版)

発 行 上田市教育委員会

所在地 長野県上田市天神一丁目8番1号

上田駅前ビル パレオ5階

電 話 23-5101